

**製品名:** p107 ウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab15564

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

## 抗原情報

遺伝子名	RBL1
別名	RBL1; Retinoblastoma-like protein 1; 107 kDa retinoblastoma-associated protein; p107; pRb1
遺伝子 ID	5933.0
SwissProt ID	P28749
免疫原	抗血清はヒト RBL1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 335-384

## 背景

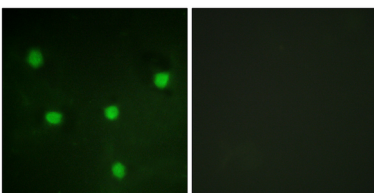
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、網膜芽細胞腫 1 (RB1) 遺伝子産物と配列および機能が類似している可能性があります

す。RB1 遺伝子産物は腫瘍抑制タンパク質であり、細胞周期の S 期から M 期への移行期にリン酸化され、G1 期に脱リン酸化されることから、細胞周期の調節に関与していると考えられます。RB1 タンパク質とこの遺伝子産物はどちらもアデノウイルス E1A タンパク質および SV40 ラージ T 抗原と複合体を形成しますが、SV40 ラージ T 抗原は各タンパク質の非リン酸化型にのみ結合します。さらに、両タンパク質はプロモーター内に E2F 結合部位を含む細胞周期遺伝子の転写を阻害します。RB1 タンパク質との配列および生化学的類似性から、この遺伝子によってコードされるタンパク質も腫瘍抑制因子である可能性があると考えられています。異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションの機能: 細胞分裂開始の重要な調節因子。ヒストンのメチル化を安定化させることで、全体的なクロマチン構造、特に恒常的ヘテロクロマチン構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与する。ヒストンメチルトランスフェラーゼ SUV420H1 および SUV420H2 をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こす。ヒストン H4 の 'Lys-20' トリメチル化を制御する。クロマチン修飾酵素をプロモーターにリクルートすることで、転写抑制因子として機能すると考えられる。E2F を介したトランス活性化の強力な阻害剤。アデノウイルス E1A および SV40 ラージ T 抗原と複合体を形成する。T および E1A がポケット結合をめぐって競合する特定の細胞タンパク質に結合し、機能的に調節する可能性がある。腫瘍抑制因子として機能する可能性がある。PTM: リン酸化型と非リン酸化型の両方で存在し、T は非リン酸化型にのみ結合するが、E1A は結合しない。細胞周期停止特性は、CDK4 による Thr-332、Ser-640、Ser-964、および Ser-975 のリン酸化によって不活性化されます。類似性: 網膜芽細胞腫タンパク質 (RB) ファミリーに属します。サブユニット: SUV420H1 および SUV420H2 と相互作用しません (類似性による)。DREAM 複合体 (LINC 複合体とも呼ばれる) の構成要素で、少なくとも E2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、および TFDP2 から構成されます。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制します。S 期には、LIN9、LIN37、LIN52、および LIN54 が MYBL2 に結合するサブ複合体を形成すると解離します。AATF と相互作用します。KDM5A と相互作用する。SV40 および JC ウイルスラージ T 抗原と相互作用する。

## 研究分野

タンパク質アセチル化; 細胞周期 G1S; 細胞周期 G2M DNA

## 画像データ



RBL1 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。